

水産大リエゾンセンターニュース

東京水産大学地域共同研究センター

vol.1 no.6 2001.3.21

Liaison Center, Tokyo University of Fisheries

千葉県水産課職員深代邦明氏が千葉県の水産の課題と水産大の知的資源を結合

リエゾンコーディネータにお願いしている深代邦明氏は、千葉県の水産の抱えている問題点を整理して本学リエゾンセンター(地域共同研究センターのこと)に来られ、それぞれの課題に強そうな教官にあたりをつけて突撃インタビューされました。何しろ、水産大を卒業して千葉県の水産課に勤めたものの、水産大のどの先生がどんなことしているのか全然知らずこれまで一度も水産大に相談に来たこともなかったのも、とつても不安だったそうです。

リエゾンセンターでは深代さんの持ってこられた課題をリエゾンセンター運営委員会を中心にそれぞれの課題に強そうな教官にあたりをつける作戦会議を開き、深代さんにイレジエをつけました。

今回深代さんの訪問を快く迎えて色々アドバイスをしていただいたのは次の方々です。

森永勤(海苔養殖・育苗); 山川紘(アサリ淡水化対策; アサリ増産対策; あわび放流効果の改善; 有機スズの影響)

糸洲長敬(アサリの淡水対策; アサリ増産対策; アマモ場造成) 舞田正志(漁病診断; HACCP方式の養殖管理マニュアル)

浦野直人(アオサ対策; いわし煮汁浄化処理; バイオエミディエーション; 環境ホルモンの微生物による分解) 大葉英雄

(アマモ場造成; オゴノリのタンク培養) 能登谷正浩(アオサの駆除; アオサを原料とした海苔の製造; 販売) 竹内俊郎

(完全閉鎖系でのアワビ養殖キットの開発; ナマズの餌ミジンコ) 三堀友雄(完全閉鎖系でのアワビ養殖キットの開発; 既存

の海苔加工機器を利用した青海苔製造) 婁小波(ナマズの流通・食用その他・アオサ流通) 田中栄次(外房ヘッドランドの諸問題・ハマグリ

のサイズのシミュレーション) 千葉県と相談して3つ程度の課題に絞って本学と共同研究することを計画しています。

リエゾン(liaison)とはつなぐという意味。大学と社会とをつなぐ連携の窓口という意味で本学の地域共同研究センターをリエゾンセンターと呼んでいただきたい。お願いします。
地共研なんて呼ばないで、リエゾンセンターとかリエゾンとかにしてくださいね。

東京水産大学リエゾンセンターの活動指針が決まる!

大学の使命は教育と研究にあります。第3の使命である社会貢献の重要な柱としての産学連携をリエゾンセンターが担います。共同研究センターは全国60の国立大にあり、多くは工学部系で似通った事をやっています。本学のセンターは全国唯一の水産系リエゾンセンターとしての特色をオモイキリ発揮したい。そのため、産学連携といっても“産”を水産業とか産業界とかに限定しないで広く社会一般から水産大学に寄せられる期待にもこたえていける柔軟な対応をします。次の4つのリエゾンセンター活動指針を据えました。

1 水産関連の情報中心になる。(水産に関することはなんでもここを覗くと必要な情報サイトへジャンプできるというホームページをつくる)

2 リエゾンセンターの重点プロジェクトを推進

- 地域の水産振興(千葉県: 気仙沼 で進行中)
- 水産食品の安全性・高品質保証システム
- 高校等における生物教育の支援

3 本学の持つ知的財産を社会のニーズと結合するコーディネーション

4 知的所有権の担保

今年もシーフードショー(7月)でシーフードセミナーを開催

7月に東京ビックサイトで開催されるシーフードショーにおいてシーフードセミナーを今年も本学リエゾンセンター主催で開きます。他のセミナーを圧倒して好評だったという噂に気を良くして今年は更にパワーアップ。本学のエース塩見一雄・多屋勝雄の両教授に登場していただきます。

日時: 7月18日(水曜日)午後1時から4時まで

講演1: 強電解水による殺菌・静菌;

藤原 昇氏(ホシザキ電機(株))

講演2: アレルゲンフリーの水産食品を目指して;

塩見一雄氏(東京水産大学)

対談: 水産生鮮物の流通戦略; 崎浦利之氏(中島水産(株))・

多屋勝雄氏(東京水産大学) (予定)

国際食品工業展(5月・東京ビックサイト)に 今年も6研究室が参加します

日本食品機械工業会が主催する国際食品工業展に8年前から大学等の研究紹介のコーナーができたときから水産大はずっと参加してきました。参加者のアンケートで興味のある研究という評価をいつももらっています。今年は次の6つの研究を発表します。

- 食品工学講座:
炊飯中の米粒内糊化進行過程の可視化(渡辺尚彦)
食品乾燥時の応力解析(酒井昇)
ORP(酸化還元電位測定)による魚の簡易鮮度判定法の開発(鈴木徹)
- 応用微生物学講座・生物資源化学講座・食品生産化学講座:
抗菌剤入りまな板の効果について(渡辺悦生)
養殖魚のための健康診断用バイオセンシングシステム(遠藤英明)
ボツリヌス・リスクの迅速評価システムの開発(木村凡)

タイトルの後の括弧内は研究代表者名

食品生産学科では食品工学実験の1日分をこの見学に当てて学生に見学させています。これも、品川にキャンパスのある利点活用で、大学院生を1-2名参加させているのが精一杯という関西の大学の先生をうらやましがらせています。

リエゾンセンターの建物を概算要求

総合実験研究棟の
ならびにリエゾンセンター(1階から3階まで)を含む建物を作ってもらいように概算要求しております。平成13年度の予算では落ちてしまいましたが平成14年度ではぜひ実現していただきたく、関係の皆様にお願いたします。



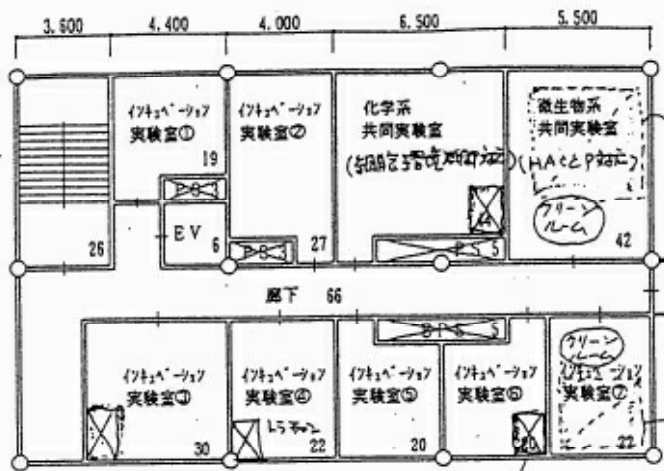
1階平面図 512m²

連絡先 108-8477 東京都港区港南4-5-7

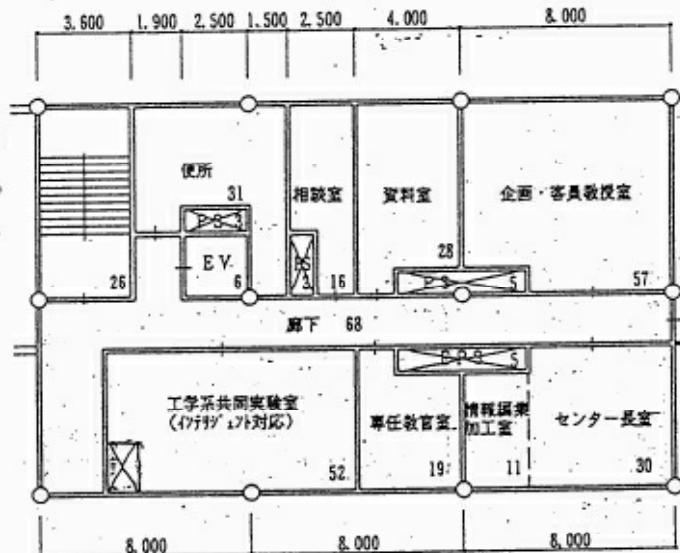
東京水産大学地域共同研究センター(リエゾンセンター)

Fax: 03-5463-0894

E-mail: od@tokyo-u-fishi.ac.jp



3階平面図 360m²



2階平面図 360m²